

<p style="text-align: center;"><b>地域社会技術特論</b> (Social Technology for Regional Revitalization)</p>	<p style="text-align: center;"><b>1 年・前期・2 単位・必須</b> <b>システム創成工学専攻</b> 担当 藤田 直幸, 谷口 幸典</p>	
	<p style="text-align: center;">〔システム創成工学教育プログラム 学習・教育目標〕 B-2 (80%), D-1 (20%)</p>	<p style="text-align: center;">〔JABEE 基準〕 d-1, d-2a</p>
<p>〔教育方法等〕</p> <p><b>概要：</b> 本講義の目的は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地方創生とは何か、また地方創生に対して技術者が果たす役割とその重要性について理解する。</li> <li>2) 奈良県（対象地域：下市町）が抱える地域創生上の問題に対する解決策の作成を通じて、技術者が社会の関わりの中で身につけるべき、課題発見、課題分析、解決策考案、解決策評価という一連の流れを理解し、それを実践する。</li> <li>3) グループワークを通じ、ファシリテーション能力、コミュニケーション能力、チームビルディング力など社会的自立に必要な汎用的能力を養う。</li> </ol> <p><b>授業の進め方と授業内容・方法：</b> 「地域創生に対して技術者として何ができるか？」を課題とした問題解決をグループで取り組む。現地調査（学外）を通じ現場から問題点を見つけ出し解決する過程を通じ、問題分析力、問題解決能力を養う。</p> <p><b>注意点：</b></p> <p style="padding-left: 20px;"><b>関連科目</b> 専門科目全般と関係が深い</p> <p style="padding-left: 20px;"><b>学習指針</b> 地方の実際の問題を直視し、技術者としてその問題に対して何ができるかを考えることが重要である。</p> <p style="padding-left: 20px;"><b>自己学習</b> 地方が抱える問題について、常日頃より情報収集、分析を行うこと。</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>教科書は使用しない。適宜プリント資料を配付する。</p> <p>〔補助教材・参考書〕</p> <p>「エンジニアリング・ファシリテーション - 話し合いをうまくまとめるコミュニケーション・スキル -」大石 加奈子 森北出版</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地方創生とはなにかと、その重要性について説明ができる。</li> <li>2. テーマに対して、現状を把握し、あるべき姿（目標）とのギャップから問題を明確にし、問題に対する調査・分析結果から課題を導き出すという課題発見の一連のプロセスを理解している。</li> <li>3. 課題を解決する具体的な手段を自身の専門分野と関連付けて提案することができる。</li> </ol>		
<p>〔評価割合〕</p> <p>中間発表会の内容、最終発表会の内容、期末試験（論述形式）</p>		

## 授業計画

	週	授業内容・方法	到達目標	自己評価*
後 期	1 週	本講義の概要説明 調査	ガイダンス、チーム分け 奈良県下市町について、インターネット等から情報収集して、マインドマップとしてまとめることができる。	
	2 週	調査	奈良県下市町について、インターネット等から情報収集して、マインドマップを活用してまとめることができる。	
	3 週	グループワークのためのファシリテーション手法の演習1	ファシリテーション手法について学び、合意形成などのグループワークに活用することができる。	
	4 週	問題分析と課題設定 1	現地調査から見えてきた問題点を分析することができる。	
	5 週	問題分析と課題設定 2	現地調査から見えてきた問題点を分析し、それを解決する課題設定ができる。	
	6 週	グループワークのためのファシリテーション手法の演習2	ファシリテーション手法について学び、アイデア発想などのグループワークに活用することができる。	
	7 週	問題解決演習 1	設定した課題に対し、解決策が提案できる。	
	8 週	中間発表会準備	中間発表会の資料を、分かりやすくまとめることができる。	
	9 週	中間発表会	事前調査や現地調査を通して得た情報から、地域の問題に対する分析結果と、問題の原因、解決すべき課題、解決策案についてまとめて発表することができる。	
	10 週	問題解決演習 2	中間発表でのコメントも加味し、設定した課題に対し、チーム内で議論し、具体的な解決策を導き出すことができる。	
	11 週	問題解決演習 3	設定した課題に対し、チーム内で議論し、具体的な解決策を導き出すことができる。	
	12 週	最終提案発表会準備	最終発表会の資料を、分かりやすくまとめることができる。	
	13 週	最終提案発表会	中間発表時のコメントも加味し、設定した課題に対する解決策とその根拠を分かりやすく発表することができる。	
	14 週	まとめ	授業で学んだことを整理しまとめることができる。	
	15 週	期末試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答することができる。	

\* 4 : 完全に達成した, 3 : ほぼ達成した, 2 : やや達成できた, 1 : ほとんど達成できなかった, 0 : まったく達成できなかった。